

# 『時事直言』 No.1500 2021年10月7日

[HP] <http://chokugen.com/>

[FAX] 03-3956-1313

[mail] [info@chokugen.com](mailto:info@chokugen.com)

[twitter 日本語] [t\\_masuda2019/](https://twitter.com/t_masuda2019)

[twitter 英語] [T\\_Masuda\\_eng/](https://twitter.com/T_Masuda_eng)

[instagram] [t\\_masuda2019/](https://www.instagram.com/t_masuda2019/)

[Youtube] [増田俊男チャンネル/](https://www.youtube.com/channel/UC...)



時事評論家 増田俊男

## FRB(連邦準備理事会)のジレンマ(Dilemma)

パウエル議長は「インフレは一過性」と言ってきたが物価インフレの加速は止まらない。

中国大手不動産開発会社中国恒大集団 33 兆円規模の負債不履行危機はニューヨーク市場を始め東京市場をも急落に追い込んだが、恒大は氷山の一角。

やがて第二、第三の恒大が出て来る。

放漫経営の一不動産会社が倒産すること自体アメリカをはじめ世界経済に大したインパクトはないが、知らねばならぬことは恒大が中国の資産バブルを象徴している点である。

北京のマンション価格の年収に対する倍率は 56 倍で、かつて日本のバブル最盛期(1991 - 92 年)、土地神話時の東京が 18 倍であったと考えると中国の資産バブルの異常さが分かる。

アメリカの住宅価格と家賃の値上がりは 1 年で 20 - 30%、新型コロナ住宅支援が終わると富裕層を除く国民は生活苦に追い込まれる。

アメリカ経済は既にスタグフレーション(経済停滞)からリセッション(不況)に移行している。

この段階で緩和縮小、やがて引締め、さらに予定されている増税となればアメリカ経済は不況から恐慌になりかねない。

かと言ってこのまま緩和を続ければハイパーインフレになるのは確実。

ハイパーインフレ(経済の死)か大不況(重病)か、どちらかを選ばなくてはならなくなっているのが FRB である。

FRB は、死は選べないから不況を選ぶ。

従ってアメリカがスタグフレーションからリセッションそして大不況に陥るのは決まったようなものである。

一国の好不況は国際資金が流入するか流出するかで決まる。

アメリカがインフレで生きるか死ぬかのジレンマに陥っている時、供給過剰デフレ体質、ハイパーインフレという言葉が辞書にない日本はアメリカを飛び出したい国際資本にとって駆け込み寺である。

小冊子 Vol.123 で特集する「避けられない世紀の大暴落」で、「日本が漁夫の利」を得ることになることを詳しく解説する。

★Youtube「増田俊男チャンネル」にて毎日動画配信中！

視聴方法:Google、Yahoo などから「増田俊男チャンネル」を検索して下さい。

### 増田俊男の「ここ一番！」大好評配信中！

投資にビジネスに一番役に立つ「ここ一番」。

「明日では遅過ぎるナウな情報」をその場で必ずお送りします。

現在、増田俊男の「ここ一番！」を FAX 又は e-mail にて配信しております。

詳しいご案内、お申込みについてはマスダ U.S.リサーチジャパン(株)Tel : 03-3956-8888、

HP : [www.chokugen.com](http://www.chokugen.com) まで。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、  
事前にマスダ U.S.リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。